

令和5年度 学校教育到達目標 高島市立本庄小学校

＜児童の実態＞
 ○向上心を持ち、目標に向かって努力できる。
 ○誰とでも仲良く、協力して活動できる。
 ○何事にも、真面目に取り組める。
 ○控えめで、積極的に行動することが苦手な子が多い。

●めざす 子ども像
 ・心身ともにたくましい子
 ・志を持ち、実現しようとする子
 ・互いに認め合い、尊重し合う子
 ●めざす 学校像
 ・安心、安全な学校
 ・子どもが生き生き学ぶ学校
 ・地域に根ざした信頼される学校
 ●めざす 職員像
 ・専門性を発揮し組織で協働
 ・使命感をもって研修に励む
 ・自らの襟を正し、信頼を得る

＜本校の教育課題＞
 ○基礎学力の定着や思考力・表現力の育成に課題がある。
 ○助けや指示を待つことが多く、主体的に粘り強く学ぼうとする姿勢に欠ける。
 ○読書習慣の定着が十分でない。
 ○少人数で、決まった集団の中で過ごすため、人間関係を広げたり、コミュニケーション力を身につけたりする機会が少ない。

＜学校教育目標等＞
校 訓
『たくましい子 本庄の心』
「地域の願いや期待を受け止め、自らの未来を切り拓こうとする意志と能力を持つ子ども」

＜地域の実態等＞
 ○滋賀を代表する自然遺産の琵琶湖に近く、豊かな自然環境に恵まれている。
 ○学校の取組に理解があり、協力的な保護者や地域の方々が多い。
 ○少子高齢化や人口減少に伴う地域力の低下、文化や伝統の継承への不安がある。

＜中期的（3年間）目標＞
 ○基礎学力の定着を図り、思考力・表現力を伸ばす。
 ・読み解く力を発揮して学びを深める授業づくりを行う
 ○自ら考え、ともに学び合う力をつける
 ・自らの志を実現しようとする意欲を育てる
 ○豊かな心、たくましい体を育てる
 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る

＜令和4年度学校評価の概要＞
 ・アンケート結果や学習参観、ゲストティーチャーとして授業に関わる経験などから、本庄小学校は小規模校の良さを活かし、児童一人ひとりに行き届いた教育が実施されているといえる。評定にもA評価が並ぶように、多くの指標で目標が達成できている。
 ・タブレット端末の導入により、学習の様子が変わってきたことが随所に感じられる。子どもたちも、「授業が分かりやすく楽しい」（98%）と回答していることから、素晴らしい成果の一つだと思う。ただ、「記憶や記録に残す」から「保存する」に変わると、感性はどうなるのだろうかという心配もある。
 ・学校運営協議会としても、熟議の結果を受けて、除草をはじめとする環境整備活動や学校支援ボランティアなど（地域学校協働活動）を積極的に行ってきた。その結果、地域の方が学校に足を運び、地域とともにある学校づくりがより一層進んできていることを感じる。
 ・中学校進学への不安は、中学校入学後の気後れに繋がる。他校の児童と比べると、本校の児童はやはり雰囲気が違う。小規模校で、一人ひとりが大事にされるのはよいことではあるが、過ぎればそれは弊害にもつながる。子どもの自立にとって何が必要か、小規模校だから考えるべき課題もある。

【本年度の指導力点】

学力向上のための力点

○読み解く力を発揮して学びを深める授業
 ○思考力育成の礎となる語彙力・表現力の向上
 ○家庭学習の質の向上と定着
 ○PTAと連携した読書習慣の醸成
 ○未来を見据えた教育の充実
 外国語活動、キャリア教育、ICT活用、個別最適で協働的な学び

豊かな心を育むための力点

○個性を尊重し、つながり合う集団づくり
 ○「気づき、考え、実行する」を合言葉に、自発的で奉仕的な活動の推進
 ○自己肯定感を高める取組の工夫
 ○人権意識を高める授業や取組
 ○価値観を深める道徳授業の推進
 ○考え議論したくなる道徳科の授業づくり

たくましい心身を鍛えるための力点

○より高く目標を設定し、その達成に向かって努力する児童の育成
 ○「早寝・早起き・朝ご飯」、「挨拶・返事・靴揃え」等の生活習慣の定着
 ○勤労体験学習の工夫と充実
 ○「自分の命は自分で守る」行動が主体的にとれる意識の向上

地域とともにある学校

○学校運営協議会、地域学校協働活動の一体的推進
 ○保護者や地域の方々が参観や参加がしやすい取組の推進
 ○地域に学ぶ(地域の自然や文化、産業など)

つながり響き合う教育の推進

○中学校への円滑な進学を目指した体験入学・合同学習の工夫
 ○道徳科を窓口小中合同授業研究の実施

【到達目標・数値目標】 数値は「よくそう思う」（強い肯定）の割合

○学力の向上

・「学習の内容は分かる」 (75%以上)
 ・意見の交流や深め合う授業づくり (50%以上)
 ・家庭学習の習慣化 (75%以上)
 ・読書量(低:150冊、中:100冊、高:70冊)
 ・読書チャレンジの実施
 ・ICTを効果的に活用した授業の実施 (75%以上)

○豊かな心の育成

・学級が楽しい、学校へ行くのが楽しみ (75%以上)
 ・「気づき、考え、実行する」の実践 (75%以上)
 ・自分には良いところや得意なことがある (75%以上)
 ・自分の価値観や考えが深められるような道徳科の授業づくりの工夫 (50%以上)

○心身のたくましさ

・自己目標(マラソン、遠泳)の達成に向けて努力できた。 (75%以上)
 ・「早寝・早起き・朝ご飯」、「挨拶・返事・靴揃え」の習慣 (75%以上)
 ・効果的な避難訓練や防災教育の実施
 ・学校は安心できる場所だ (75%以上)

○保護者や地域との連携

・学校運営協議会の実効的な運用
 ・本庄が好きで誇りを持っている(80%以上)
 ・学校・学年だより、ホームページ等により、学校や児童の様子が分かる。 (50%以上)

○保小中の連携強化

・中学校進学への不安を感じていない児童 (75%以上)
 ・小中合同の研究授業の効果を感じている教員 (50%以上)